第16回 能美市タウンミーティング（郵便局長）

平成29年11月21日（火）19:00～

寺井地区公民館 201会議室

【司会】

ただいまから市内郵便局長の皆様方と能美市とのタウンミーティングを始めたいと思います。

まず初めに、南加賀郵便局長会の会長、小松大川郵便局長よりご挨拶お願いいたします。

【小松大川郵便局長】

皆さん、こんばんは。

市長の前にご挨拶ということで本当に恐縮ですが、日ごろ、本当にいろいろとお世話になりまして、ありがとうございます。

南加賀エリアには全部で51郵便局ありますが、私はこの4月から、加賀市、小松市、能美市、川北町、3市1町にある郵便局会長をすることになりました。一生懸命勉強している最中ですが、きょうはこのような機会をつくっていただきまして、市長、本当にありがとうございました。

今の郵便局の現況を簡単にお話しさせてもらいたいと思います。

郵便局が明治4年に創業して、あと4年で創業150年になります。平成19年には郵政が民営化し、今年度は11年目になりました。

民営化直後は、いろんな新しいものに翻弄され続けた部分がありますが、その間、地域への貢献がちょっとないがしろになっていたのではないかと思います。

全国には約2万4,000郵便局があります。その組織で10年目を迎え、11年目に入るということで、大きい節目で、大きく軸足を切りかえました。それは、地方創生への取り組みです。

私たちは一応会社の人間なので、会社の仕事も当然ありますが、長い年月、郵便局長としていろんな地域貢献をしてきました。それを基礎に、これからは能美市のいろんな活動について、郵便局としてできることがあれば何か協力したいと思い、きょうは、市の御用聞きみたいな気持ちで来ました。

それで、地方創生の取り組みとしては、まずことしの3月に谷本県知事と、北加賀エリ

アの会長との間で、地域の活性化や、経済の発展を願って、連携包括協定を結びました。観光、経済の振興、移住・定住など、いろいろなものを11項目にわたって取り組みます。これは郵便局から提案するだけでなく、県が郵便局にしてほしいことも全部まとめており、今後、継続して県とお話しをして、いいものを、郵便局ができるものを提供していきたいと思っています。

ですから、今から郵便局は全国的にも各自治体、能美市のニーズに応えていきたいと思っています。井出市長初め、各幹部の皆さん方、住民の意見を聞き、郵便局にやってほしいことがあればどんどんお聞きしたいと思っています。

ちなみに、うちでできることを簡単に言いますと、ポストに観光のものを張りつけることができます。熊が出没したら、「熊出没注意」という呼びかけをしていると思いますが、そのQRコードをポストに張りつけて、ポストに投函してきた人が登録しているような情報を得るとか、そのようなこともできます。

また、東京駅の真ん中の、元東京中央という一等地にあるKITTEという複合施設があるのですが、こちら自治体の皆様の要望があれば、物産展など、半額で提供できます。

郵便局の一番のよさは、やはり全国のネットワークということです。東京で地元のを販売するとなったら、東京方面にも郵便局がたくさんあるので、その協力を得て動員するということができます。

おもしろい企画では、九州のほうで婚活パーティがありました。最近、手紙文化がないということで、「手紙による恋物語」という、そういうテーマで行い、昨年度は152名集めて25組のカップルが誕生、今年度、2組が結婚されました。これは移住・定住、少子化対策ということで行っています。

それをさらに拡大すると、例えば東京の女性をこちらの婚活パーティに呼び、地元の男性とお見合いするとか、いろんなことが郵便局のネットワークを使えばできるのかなと思います。

話し出すといろんなことがありまして、空き家情報とか、郵便局のノウハウはいろいろあります。これからは能美市からの要望でいろいろなものを、ほぼボランティアという形で提供して、少しでも能美市の発展になればと思います。

今、能美市は住みよさランキングが全国9位と、すばらしい市ですが、それをトップに上げるために何か応援できないかなと思います。地方創生、能美市の発展のために郵便局ができることを要望してもらい、それに応えていくというスタンスでやっていきたいと思

いますので、本日がその一歩になれば非常にありがたいと思っています。どうもありがとうございました。

【司会】

ありがとうございました。次に、井出市長がご挨拶を申し上げます。

【井出市長】

まずは、きょうはタウンミーティングの機会をいただきまして、本当にありがとうございます。

きょうは天気がよかったので、皆さんもいろいろとお忙しい一日だったのではないかなと思います。お疲れのところをお集まりいただきましたことに、重ねて御礼を申し上げます。

8月30日に、皆様方と、この地域の協力に関する協定を結びました。我々にとっても本当に力強い限りでして、そして今ほどは会長のほうから、改めて能美市を支援をしていきたいという、さらに力強いお言葉をいただきまして、本当にありがとうございます。きょうはそのあたりをゆっくりとお話したいと思います。

能美市の現状を少しだけお話しします。このところ、人口が微増ですがふえていまして、11月1日現在で5万183人です。5万200人になった日もあるのですが、今のところ、微増ながらふえている状況です。ただ、その中身を分析しますと、最近、外国人の人口がふえています。その背景にあるのは人手不足で、市内にある企業さんが外国人の雇用を促進しています。

もう一つは、北陸先端科学技術大学院大学の留学生がふえていることもあって、外国人の転入がふえている状況です。

そして、さらに細かく分析しますと、今のところ、転入と転出を比べると転入のほうが多いので人口がふえているのですが、ここ12年間の能美市が合併以来の傾向をずっと見ていますと、転出が上昇しています。今のところ転入のほうが多いので人口はふえていますが、いつの日かそれが逆転する可能性を秘めているのかなと思いちよっと心配をしています。そのあたりでいろいろとご支援をいただければと思います。

さらに、人口の動態を詳しく調べ上げますと、20歳から35歳までの若年層の比率が少しずつ減っている傾向もあります。その年齢の方というのは、子育て世代でして、人口比率が減っているのは心配です。まさにその子育て世代の転入をさらに推し進めていかないと、この能美市の発展は継続していきません。

加えて、婚姻数、結婚される方もやはり年々減っていきまして、何かしらの支援策をしていかないと、自然増がなし得ません。このあたりもきょうご相談したいと思います。

2つ目の課題は、人手不足です。このところ、おかげさまで企業誘致が好調でして、その課題として見えてくるのが人手不足です。一部上場企業が能美市に工場をつくり、100人単位の新規雇用を望むとなると、地元の中小企業が人手不足になります。

いろいろ長く申し上げましたが、この人口変動をどうしていくのか、それから、人材不足をどう補っていくのかということが今の能美市の最大の課題ではないかと思います。

これまでタウンミーティングは15回やってきまして、きょうは久しぶりにタウンミーティングをさせていただきました。

これまでの15回というのは、答弁者は私一人ですとずっとやってきたのですが、きょうは新スタイルで、市職員が6名同席をしています。会長さんからも忌憚のない場にしたいというお話をいただきました。我々も、私以上に市の現状を把握している職員のほうからいろんな相談をさせてもらいまして、能美市、そして郵便局それぞれがウイン・ウインになるような、そんな場にしたいと思いますので、貴重なお時間ですが、本日はよろしく願いします。

【司会】

それでは、人口減少、人材不足への対応も含めまして、市民の安心・安全な、そして快適な生活ができる、そういうまちづくりに向け、郵便局の皆様と能美市が双方の特徴を生かしながら、強みを生かしてどういうことができるのかということについて意見交換をしていきたいと思います。

進め方としては、郵便局の皆様方から地方創生にちなんで、取り組まれている内容、それから能美市との協定につきまして、ご説明をいただきまして、その後に意見交換に入りたいと思います。それでは、郵便局の取り組みについて、辰口郵便局長様から説明をお願いします。

【辰口郵便局長】

郵便局は、全国に2万4,069局ありまして、社員数が、期間雇用社員も含めて約40万人という大変大きな人材を抱えています。その建物の資源とか、人の資源等活用しながら、中には山間部、離島等にお客様の少ない郵便局もあるのですが、ユニバーサルサービスということで非常に地域の皆様のために頑張っているところです。その資源を生かして、地域とともに長い郵便局のまた歴史を地域と続けていきたいと、地方創生については郵便局も最

大課題として取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

また、先般、協定を結びました地域の見守りです。災害時の被害者支援ということで、各自治体の中には災害協定という個別の協定を結んでいる自治体もあります。能美市については、この災害の協定は結んでいないのですが、災害の協定を結ぶことが目的ではなくて、協定ありきではなく、災害が起きたときに郵便局としてどんな協力ができるのかを捉えて行動していきたいと思っています。

こちらに郵便局の事務局長がいますが、全局長、防災士の資格を持っていて、災害が起きたときに、防災士としてだけでなく、地域の郵便局としてできることをして、自治体さんや地域の方々と協力して、被災された方を助けていきたいと考えています。

防災ネットワークや、委員会や、防災士の会など、いろいろ活動していますが、いろいろな勉強をしながら、また進めていきたいと思っていますので、よろしく申し上げます。

また10月から、郵便局の見守りサービスというものがあります。これは事業化されたサービスなのですが、月に一度、独居されている方などを訪問して、それを家族の方に、今どんな状況かということ写真でお知らせしたりします。それと、見守り電話サービスというもあって、電話が毎日、自動コールですが、そちらのお宅にかけて、「今元氣です」1番、「ちょっと体調悪いです」2番とかボタンを押していただく、そういったサービスです。それから、オプションですが、大手警備会社が、何かあったときには駆けつけるサービスも連携してやっています。

あとは、子ども110番です。こちら、青少年の方、子どもの方、あと移住してきた方を支援するためのもので、警察署と連携して郵便局のほうに子ども110番の看板を設置しており、子どもたちが何かあったときに駆け込むことができるようになっています。何か目の前で起こっていることがあったら、警察または地域と連携して助けていきます。

移住・定住の関係は、地域振興課長とも連携しながらやっています。また、石川県と平成28年3月24日に移住・定住の協定を結びました。

これについては、移住されてきた方が生活に困らないように、局長がサポートしていくというのが大きな流れです。地域振興課長と私たちの移住関係社員でお話ししたときには、能美市に移住・定住が進むように話しました。後ほど担当のほうからまた説明します。

それから、若年者の婚姻率が低下しているという中で、能美市にこれからも長く住んでいきたいと思ってもらえるような市になっていくように、郵便局としても何とかお手伝いしていきたいと思っております。

次は、地方のいい自治体、地域の情報を発信するという事で、いろんな事例がありまして、能美市では大きなポスターをつくられたと思いますが、全国の郵便局に張って能美市をPRできないかというご相談を受けました。しかし、サイズがB2サイズまでしか掲示できず、ちょっとサイズが超えていまして、要望にお応えできず、本当に申しわけなかったです。しかし、全国の東京中央、横浜中央、そんな大きな郵便局の中で展示するなど、いろいろなPRができます。

「デジタルサイネージ」は、まだ準備中ですが、大きな郵便局のほうでは「デジタルサイネージ」を取り入れてやっていますので、でき上がりましたらまたお知らせしたいと思います。よろしくをお願いします。

また、全国の物産展が頻繁に行われていたのですが、それは東京中央とか、横浜中央とか、大きな郵便局のロビーでした。東京にKITTE、名古屋にKITTE名古屋、その他、KITTEという不動産スペースが大きな駅前にできまして、石川県との包括連携協定が29年3月に結ばれたこともあり、そういった連携をとっている自治体については半額料金でお知らせスペースを借りられるようにしていますので、ぜひ能美市の物産展なりを、東京のKITTE、名古屋のKITTEなどで開催してみたいかと思っています。

あと、フレーム切手、それから、過去もう30年以上続いている、郵便局のふるさと小包というカタログ販売をしています。能美市でも、JAとの連携のもと、加賀丸いもが今ちょうど発送の時期でして、2,200ほど出る予定となっています。

あとは、ふるさと納税の関係ですが、郵便局にも「ふるさとぷらす」というふるさと納税のサイトがあります。こちらについてはもっと使いやすくなるように、今改善中です。

そして、ゆうパックの箱にご当地キャラクターのプリントをしていますので、そちらもご紹介しておきます。

【司会】

次に、8月30日に、市と協定を締結していただきました地域における協力に関する協定につきまして、緑が丘郵便局長からよろしくお願いいたします。

【緑が丘郵便局長】

先日、8月30日に、能美市と郵便局の基本協定といたしまして、「地域における協力に関する協定」を締結させていただきました。

3つの基本からなる協定で、1つ目は高齢者、障害者、子供等の地域の見守りの活動の協力、2つ目が道路損傷を発見した場合の情報提供、3つ目が不法投棄等の発見した場合

の情報提供ということで締結いたしました。

あれから2カ月がたちました。現在のところ、情報提供している事案は発生していませんが、郵便局のほうでは、社員全員が市の連絡先を携帯して、何かあった場合に情報提供ができる体制をつくっています。

あと、高齢者ががやき支援室のご協力により、認知症サポーター養成講座をしてしまして、現在、パート社員を含めた57名中51名が取得しました。約9割の取得ということで、他の部会から見ても取得率はかなり高いです。

それから、子ども110番は、先ほどお話ありました。

移住・定住のほうは今年に入ってから数回、地域振興課長と打ち合わせをしています。今後も継続して話し合いを進めていきたいと思います。

あと、防災士との関係ですが、皆さん、防災士の資格を持っています。有事の際には駆けつけるべく、能美市の市民防災ネットワークのほうに全局長加盟しており、研修会や出前講座、各種イベントにも参加しております。

あとは、能美市商工女性まちづくり研究会の、買い物弱者向けの移動販売への支援で、ご紹介や、ここできょう移動販売出ていますというお話などをしています。

郵便の父と言われる前島密の精神である「縁の下の力持ちになることを厭うな。人のためによかれと思う心を常に持てよ」ということを全局長、精神、心をもって、能美市様と今後とも深いきずなでお互いに協力していただければと思います。

【司会】

これから意見交換に入りたいと思います。大きく分けて4つのテーマで行いたいと思います。こちらのほうから話題を提供するような格好でご提案などを出しますので、その中で意見交換をおこなっていききたいと思います。

① 暮らしの安全・安心確保について

【司会】

それでは、まず初めに、暮らしの安全・安心の確保についてです。

【介護長寿課長】

日ごろより、高齢者福祉、また介護に多大なご協力いただきまして、どうもありがとうございます。この場をおかりして感謝申し上げます。

先般は、協定ということで、配達中に認知症の方が歩いていたり、または郵便物がたま

っていたりしましたら、市役所に気軽にご連絡くださいというような緩やかな見守りとい
いますか、そういう協定を組ませていただきました。

私の経験ですが、市内でひとり暮らしのお年寄りが孤独死していた事案がありました。
なぜそれがわかったかという、能美市は生協と協定を組んでいまして、生協がそのお宅
に訪問したときに、新聞が2週間分ぐらいたまわっていて、異変を感じて、協定があった市
のほうに連絡がありました。

そして、介護長寿課の職員2人でいきますと、その方はすでに亡くなっておられました。
そのとき思ったのは、どうして郵便受けがばんばんになっていても、誰も関係者の方々に
伝えたりしないのかということです。

そういうこともありまして、この協定を機に、本当にちょっとしたことで構わないので、
異変と思えば電話してもらえればと思います。

あとお願いしたいのは、認知症サポーターの養成です。今、9割ほど取っていただきま
した。本当にありがとうございます。こちらは、職員の方も含めて、新入社員が入ったと
きにはまたぜひとも取ってもらえればと思います。これを持っているということは認知症
への正しい理解とか、対応はできるという証拠でもありますので、職場とか家庭とか、ま
た近所で認知症の方がいらっしゃった場合はお声かけや、こういうふうに対応したらいい
よとアドバイスをしてもらえればと思います。

そして、窓口には認知症の疑いで通帳を何回も取りにくる方とか、判こなくしたからと
いうことで変更届を何回もする方がたまに出てくると思います。サポーター研修を受けた
からこそ、そういう方に関して、せつかく協定も結んでいますし、先般、個人情報の取り
扱いのかかわる要領に関しても、取り扱いをさせていただいていますので、そのときはぜ
ひともご連絡をお願いします。

その際は、市役所でも構いませんが、能美市は各地区に高齢者の相談窓口を設けていま
す。根上は市立病院横の根上高齢者支援センター、寺井はふれあいプラザ2階の寺井あん
しん相談センター、辰口は芳珠病院下の辰口高齢者支援センターがあります。これは高齢
者の身近な相談窓口です。介護のこと、ひとり暮らしの悩みとか、いろんなこと、何でも
よろず相談屋と思ってください。こういう方がいるとかいうのも全部相談してください。
センター職員が本人のところに出かけて、本人さんとお話をしたり、本人の状況を見たり
していろんなサービスにつなげますので、ちょっと悩んだらこちらのほうにご連絡、情報
提供してもらえればと思っていますので、よろしくをお願いします。

あと、介護長寿課とすれば、どうしてもひとり暮らしの高齢者がふえていまして、若い方と話す機会がなく寂しいという方が非常にいますので、郵便配達などのときには一声挨拶をしてもらえばと思いますし、そのときに何かで悩んでいるとか、困っていると言われましたら、すぐ、高齢者支援センターがあるよと言っていただければと思います。

【市内郵便局長】

地区の認知症サポーターですが、講習は局のほうで受けられるのですか。

【介護長寿課長】

はい。

【市内郵便局長】

劇のようなものをしてくれて、すごくアットホームな感じで受けた記憶があります。

【介護長寿課長】

そうです。サポーター養成講座をするときも、高齢者支援センターに申し込みますと、そこから講師の先生を派遣しまして、受講できますので、高齢者支援センターにご連絡いただければと思います。

【市内郵便局長】

郵便局は、高齢のお客さんが多い、そういう特殊なところなので、やっぱりお客さんが認知症かもしれないと気になることはあるのです。ですから、やっぱり認知症のサポーター講座で、知識を得て、きちんと対応をしたいです。そして、そういうときにはまた、市のほうにこれからも情報提供をしていきたいと思います。

【介護長寿課長】

ありがとうございます。その情報をもとにして、何かきっかけをつくることができれば非常にうれしいです。

【市内郵便局長】

それと、一人暮らしの高齢者の関係ですが、郵便局としての強みは配達を必ず行うということです。

これはアイデアで、どうなるかわからないのですが、市のほうで把握している一人暮らしの高齢者宅の玄関に、そういうステッカーみたいなもの、何か失礼に当たらないようなものを張りつけます。郵便配達は毎日全町回っていますので、そこで「どうですか」くらいの声かけするような、そういうサービスも本当はしたいと思っています。

それとまた、そういうステッカーが張ってあるお宅で、近所の人が「最近見とらんぞ」

と気が付いたときには、通報先がわかるようにしておきます。それが郵便局であれば郵便局から市のほうにまた連絡するということも含め、今からいろんなことを郵便局はしていきたいと思っています。

【井出市長】

先ほど3週間分ぐらい新聞がたまっていたという話が出ましたが、郵便局の場合、郵便物がどのぐらいの期間たまっているとき「異常だ」って感じるものですか。

【辰口郵便局長】

2日、3日受け取ってなければ。郵便配達に行くと新聞も差さっていると思うのですが、新聞が2日ほどたまっていればおかしいと思います。でも、今厳しくて、郵便物は受箱の奥まで入れることになっていて、差し入れ口に半分出ているという状態はなかなかありません。

【郵便局長】

個人情報保護法ができてから、特定の方に特定の内容のものを知らせようとしたときには、昔は受箱に頭出して突っ込んである形があちこちで見られましたけど、今はもうわからないように中まで入れることになっています。中に落ちてしまったら、たまっても気づきにくいです。そこは昔とは変わってきたところかなと思いますが、気配は感じます。

【井出市長】

その異変を感じた場合に通報してもらおうということですが、異変というのはどのあたりが異変ととられるものですか。

【市内郵便局長】

経験した話ですが、先ほど言ったように、通帳がなくなりましたと再発行を10回ほど繰り返していたり、判こが来るたびに違って、改印を何回も繰り返したりします。認知症だと郵便局ではよく分かるのですが、どの時点で言ったらいいかというタイミングがなかなか難しいです。

【井出市長】

例えばその配達しに行ったときに、3日間分ぐらい新聞がたまったら異変だということでは我々のところに通報をいただくことになっているのですか。

【小松大川郵便局長】

難しい話です。民営化になって、分社化をして、今私たちは窓口の局長です。昔、寺井の局長をしていた時は、自分の管理下で配達をしていましたから、配達員にはそういうレ

クチャーをしてきました。今は小松郵便局の社員が配達をしています。私どもの管理下にありませんので、そういうレクチャーをできていません。そして、小松の局長がどのように社員にレクチャーしているのかというのになると、私も把握できていません。

彼らは間違いなく、その家にどういう人が住んでいて、どういう家族状況かということを知って配達しています。でも、今はもう配達することだけで一生懸命で、たまっているか確認するところまでの余裕はないのかもしれないし、私どもの指導というのもまだそこまで行き着いてないのが実態であり、現状です。

しかし、やはりこういう締結をした以上は、小松の局長と幹部に、配達するときの意識の持ち方というのをしっかりやらないといけないと、会長を通じてレクチャーしていくべきということですね。

郵便物がたまっていれば、明らかにおかしいです。今はレクチャーがされていないという感じです。

【井出市長】

それから、一人暮らしの高齢者のところに何かステッカーを張るとするのは私もいい案だと思います。しかし、治安の面でどうなのかというのがあるので、我々のほうから一回警察に聞いてみたいと思います。

【介護長寿課長】

名称「にこにこシール」とか。地域の人、郵便局、配達する人、誰もが、それがわかって声かけができるような、そういうものができればいいと思います。こちらでもまた考えてみます。

また、「異変がある」という、その判断基準を、大体新聞3日分とか、ある程度必要と思いますので、検討します。

【佐野郵便局長】

私の郵便局の窓口にも認知症なのかなと思われるお客様がよく来局されます。そういったお客様に対して、私も社員も一緒になってサポートしているのですが、ほかのお客様も多くなってくるとサポートしづらい時があります。

そういったときに、市や、民生の方とかと一緒に協力してできればいいかなと思っていました。そういった方も一緒に相談してサポートできればと思います。

【司会】

ますます高齢化は進み、こういう問題に直面する機会は多くなると思いますので、また

その辺りは市と十分共有しながら進めていけばいいかなと思います。

どうもありがとうございました。

② 環境保全等について

【司会】

引き続きまして、環境保全等につきまして、生活環境課長、お願いします。

【生活環境課長】

私どもの課のほうでは、交通、それから防犯というところも担当していますので、その辺りで考えてみました。

郵便局の強みはまず何かなと考えてみたのですが、配達をバイクとかでされることが多いと思います。バイクは車と比べますとスピードもそんなに出ませんし、視界も広いということで、交通に対しての危険な箇所がわかるのではないかと思います。

配達をしまして、例えば、見づらい場所とか、出づらい場所とか、危ないところを感じれば言ってほしいです。逆に、視界がよ過ぎてスピードを出してしまう場所とか、停止線があったほうがいい場所とか、そういうところもわかるのではないかと考えました。

それから、防犯では、ふだん回っている中で、例えば見なれない車がとまっているとか、ふだんと違う人が歩いているとか、何かそういうことがあればお知らせしていただくということも、実際に決めつけられないので何とも言えないのですが、予防の一つになるのではと思います。当然、警察との連携もあります。

学校教育課からの案ですが、不審者情報があった場所を地図に落として、そこを通るときは少し気をつけていただくとか、あるいは児童の下校時間帯に少し気をつけて見ていただきたいと思います。朝は、集団で登校したり、見守り隊の方も結構一緒に同行したりするので、比較的大丈夫と思いますが、下校時間は、学年によってばらばらなので、1人、2人で帰ったり、人数が少なくなって、比較的声がかかけられやすいような環境にあるので、そういった時間帯に少し気をつけて回ってもらうことは可能でしょうか。

あとは、空き地で草が伸びていたりするところですが、現場を見まして、景観的な面でも、ぼい捨てなどの面でも、草が伸びているので刈ってくださいという通知を、出しています。配達中に、草が伸びているようなところがあったら教えてもらうことも可能なのかなと感じました。

【根上大浜郵便局長】

郵便局は、子供110番という形で、言ってみれば子供の避難所が、大浜や、根上郵便局は駅のすぐ近くにあります。警察から不審者が出たという情報はよく入ります。私も去年はPTAの会長をしていたので、「とにかく近くの何か大きな公共のもの、入れるところに助けを求めなさい」というような形で学校にアナウンスをしてもらえよう申し上げていました。何かあったときに、どこかに助けを求めるということが、今の子供たちはなかなかしにくいというのがあると思います。郵便局の窓口は5時まで明かりがついています。警察と連携をとる、市と連携をとることは郵便局としては組織的にも可能だと思っています。

【市内郵便局長】

学校でも危険箇所は一部ですが決められています。それを危険箇所とするのは情報的にも問題ないと思うので、いただきたいです。

あと、木が生い茂っていると、やっぱり物を捨てたりされて、そこに何があるかわからないという、美化というよりも、それが一番危険です。そんなところは、例えば町内会に言うとか、何か方法があると思います。

要は、高齢者においても子供においても危険箇所は特に見やすくする努力をする、情報提供するというのをあわせてお願いしたいです。あとは郵便局のシンボルサインである「〒」マークに電気がついているのですが、それも、なるべく明るくするなど、協力できる部分はあると思います。

【市内郵便局長】

交通危険箇所ですが、配達は大松郵便局が全部しているので、またその局長と話をしまして、配達員が、ここはいつも危ないという、自分で経験した部分を何かマップにできないか、それはちょっと考えてみます。

その他のものについて、不審車両についても、一回配達担当の局長ともまた相談しまして、でき得るような形でまたお知らせできればと思います。

【根上道林郵便局長】

私も昔、配達を経験しました。私のときは、朝7時40分に出て1時間半から2時間かけて道順を決めてから配達していました。

これは、住所、番地、家族構成を覚えていないと仕事になりませんでした。今は同じ7時40分に出て、寺井町で出された郵便は新金沢へ行って、郵便番号7桁と番地さえ書いてあれば、機械がみんな道順を決めます。朝出てきてすぐ配達に出ている状況です。多分、

私のときの1.5倍から2倍配達しています。

そして、例えば新聞が3つ、4つたまっていて何も思わないのかなと言われたとき、私はおのこの感性だと思いました。隣近所の人に「ここの人、今どこか旅行でも行っておいでるかね」とか、聞く子もいると思うし、個人個人違います。今の体制は、配達の3割が正社員で、7割がアルバイトです。

【市内郵便局長】

何ができるかということは、今からだと思うのです。例えばアルバイトの子にしても、今から、我々が何かこういう異常があったら通報しなければいけないという気持ちで配達をしていけば、徐々に配達する機械ではなくなってくると思います。徐々に深めていけばいいのではないかと思います。

【寺井郵便局長】

昔、栗津郵便局にいたときに、ひまわりサービス（※高齢者の安否確認のサービス）というのがありました。いつも「父ちゃん、おるかい？」と大体そんな形で呼びます。するとその人、私にしゃべりかけたくて、時間がかかるのですが、一生懸命歩いて出てくるのです。でも、その触れ合いってというのがすごく大事で、私も待っているのですね。来るかなと思って。有料とか無料とかに限らず、そういったのはやっぱり僕らの市の中では大事なコミュニケーションと感じます。それは間違いないことです。そのまま続けていくべきだと思います。

③ 移住・定住について

【地域振興課長】

移住・定住ですが、Uターンも考えているということで、郵便局が出していますダイレクトメールに能美市の魅力や、宣伝を少し入れてもらうことができないのかなと思います。

また、必ずお客さんとお話しすると思うのですが、移住した方とか、もしアパート住まいの方がいれば、口頭で能美市のPRもしていただきたいです。何かそういう小さいことの積み重ねで能美市のよさとか、能美市の定住につながるできないかなと思っています。

郵便局に能美市のPRチラシを置いていただくなど、能美市の魅力を発信する場所としても郵便局の協力を得られないでしょうか。郵便局には、結構移住者、県民の方が手続においでます。住所の変更も郵便局でされると思うので、そういった人と人とのつながりの

中で、能美市のよさをPRしていただけないかなと思っています。

あと、「ひぼ能んとゆず美ん」という、のみバスのキャラクターですが、今後、市のキャラクターとして活用していく話が出ていますので、そういったグッズ商品や、（ゆうパックの）ボックスにひぼ能ん、ゆず美んをプリントしていただくとか、何かいろんなところで、「ひぼ能んとゆず美ん」のものをつくって郵便局さんで置いていただく、ポストカードでもいいですし、何かチラシの端にでもいいですし、何かプレゼントみたいなものの中にちょっと入れていただくとか、そういったことができないかなと思っています。

あと、保険の外交の方など、そういう人たちが能美市のきれいな景観とか、能美市の中で感じ取ったこと、あるいは人と人との会話、お客さんとのアットホームな、ほのぼのとした会話とか、そういうので、能美市ベストテンみたいなものを紹介するとかできないかなと思いました。

【市内郵便局長】

実は青森県で郵便局と市がタイアップして、新しいものをつくったそうです。青森はリンゴの産地で、ジュースにしたリンゴの搾りかすではがきをつくって、郵便局から出すもの、全部、つくったそうです。

最初は単価的に高目だったのですが、それがだんだん口伝で、地元おこしにもなりPRにもなるということで（評価されました）。ですから、そういうような意味の封筒に市のロゴを入れるとか、あとは配達、バイクの車両に、このキャラクターを張りつけるとか、それはどんどんやっていきたいと思います。

【市内郵便局長】

まず思ったのは、保育園です。大成にも新しい保育園ができたし、粟生もできているし、能美市に住んでいる人は当たり前かもしれないですが、能美市は保育園が素晴らしいです。これは新しく来た人に胸を張って言えることです。

あと、松井秀喜ベースボールミュージアムです。素晴らしい選手です。もっと何かできないでしょうか。市制10周年で松井秀喜さんの年賀状を出していただきました。市の予算で取り組んでいただいて、あれは結構喜んでもらいました。胸を晴れる施設はいっぱいあります。

【市内郵便局長】

きょううちの郵便局にいらしたのですが、普通預金の通帳を持ってきて、100円だけ入れていくお客さんがいます。うちの前に来た郵便局は道林の郵便局で、道林の郵便局のス

スタンプが押してあります。その後、うちで100円を入れて、こうやって郵便局を日々めぐ
る人がいるのです。旅行ついでに、全国の郵便局を回っているようです。今は石川県を旅
行していて、通帳の違うページを見ると、関西のほうを旅行しているのが分かります。そ
ういう方は意外といいます。

風景印を持っている郵便局があるのですが、その風景印を押してくださいというハガキ
が来ます。それを押したときに、うちの郵便局はこういう立地で、能美市というところは
大リーガー松井秀喜選手を輩出した土地柄ですというお返し文を入れて送り返します。そ
れがどういうアピールになっているのかはわかりませんが、特に道林の郵便局は新しい郵
便局なので、去年はもう全国から記念のスタンプを押してくださいと来しました。

でも、そのぐらい、意外と郵便局をめぐる方はいて、そのときにちょっとでも能美市と
いうものを気に留めてくれると楽しいという思いで、対応しています。

【宮竹郵便局長】

移住・定住で具体的な方向性が出ているものについてご紹介させていただきます。

宮竹郵便局の入り口のところに、移住・定住コーナーという形で、県との移住・定住の
協定で発行された、サポーター認定書と、こういうサポートいたしますというパンフレッ
トが置いてあります。これを見ると、移住・定住を郵便局がサポートしているというこ
とがまずわかりますし、その上で能美市のパンフレットも設置します。こういった形で各郵
便局数、全ての郵便局でPRコーナーというのを設置したいと考えています。

【地域振興課長】

ありがとうございます。

【宮竹郵便局長】

あと、口頭で能美市のよさを伝えてというところですが、宮竹町の私の住まいの近くに、
4軒ほど新しい住宅が建ち、全て子育て世代の方が入ってこられました。

その方たちに、宮竹町の良さを聞いたときには、交通の便のことを言う方が多かったです。
会社が金沢、野々市の方が結構多くて、川北大橋も無料になりましたし、やっぱりそ
こも魅力だったという方もいらっしゃいました。保育園がすごくいいと言う方もいた
りました。

自分は生まれも育ちも宮竹なので、自分ではわからないよさがあります。そういった子
育て世代の方々とまた話をしてみて、そういうのが口頭で良さを伝えるときのヒントにな
ったり、参考になったりするのかなと思いましたので、また移住したり、ご相談にきた人

とかに、いいところありますよと伝えたいと思います。

【地域振興課長】

ありがとうございます。

【井出市長】

例えば、灯台笹に家族4人で越してきた方がいるとします。その方に、自分は東京で商社マンをやっていたので、それを生かしてどこか就職したいという相談を受けた場合に、お仕事、就業に関する助言や情報を提供いたしますと郵便局は言いますが、どんな情報をお持ちですか。

【市内郵便局長】

石川県内で全部サポーターというのをやっているのですが、1人の知恵というか、宮竹なら宮竹にずっと住んでいる人が、宮竹の大体のものはわかるので対応します。しかし、就職先などの、いろんな要望があるときに、1人ではなかなか対応できないので、2人ペアになります。郵便局員もいろいろな地域活動をしているので、そこから何かヒントを話し合っただけで相談しながらになります。これはすぐ決まるものではないので、1カ月、2カ月かけます。金沢ではそんなふうにあります。

【井出市長】

住まいのこと、仕事のこと、地元のイベント情報とかは、アップデートしていかないと正確な情報を伝えられない部分があると思いますので、市役所が連携すればいいと思います。そのあたり、我々も整備していきます。せっかく郵便局が移住をサポートし、窓口になってくれているので、我々がきちっと情報を提供することによってその連携が深まるのなら、ぜひやっていきましょう。

【宮竹郵便局長】

よろしくをお願いします。

【市内郵便局長】

川北の移住サポーターをしています。川北にはあまりニーズがないように思います。しかし、何かあったときのためにも、定期的にやっていかないといけません。いつも地域振興課と協力してやっているのですが、それを踏まえていろんな情報交換をさせてもらいたいと思います。

あと、一番、私たちに欠けているのは、福祉の補助の制度とか、住宅のいろんな制度とか、まちのいい制度などの知識でして、なかなか知り得ない部分があります。広報には載

っていますが、見ない、知らないものもあります。そんなのをお知らせしてもらいたいです。

紙ではなかなか伝わらないので、人から人へと連携していけたらよいと思います。私たちのお客様の多くは高齢者なので、例えば、お客様の息子が東京にいますというときに、まさにこんな制度があるからぜひ市役所に行って聞いてみてくださいよと伝えていくのもこれからすごく大事なことだと思います。

【司会】

お互いに持つ情報を提供し合いながら深めていけばいいと思います。

④ 防災関係について

【危機管理課長】

防災については防災士である皆さんのほうが詳しいと思いますので、私のほうから、防災について何かいうのもおこがましい部分がありますが、皆さんが防災士を持っているという強みを生かしてもらえればと思います。

防災というと、何かかた苦しいという部分があると思いますが、実は日ごろの生活の延長であって、全くそんなかた苦しいことはありません。

防災の自助・共助・公助があるのは皆さんご存じだと思います。やはり共助を皆さんの知識なり、ネットワークなりで深めてもらうのが我々としては一番ありがたいと思います。

例えば、皆さん防災士の知識をお持ちなので、郵便局の窓口を防災の展示場にするのもよいと思います。

市としては、備蓄品とかも進めています、市の備蓄だけでは絶対賄えません。となると、やはり家庭備蓄がとても大事になってくるので、それがどれだけ大事なのかということ、移住・定住のことがATMの近くに置いてあるように、さりげなくアピールするのはとてもいいと思います。身近なところで身近なことを感じるというのは一番いいと思います。

それと、ミサイルが発射されたときの避難場所ですが、近くの、できるだけ頑丈な建物とよく言われます。

正直、田舎でそんな頑丈な建物はなかなかありません。郵便局は鉄筋コンクリートできています。災害時の緊急避難場所として指定するのはなかなか難しいですが、いざというときはここ逃げてくださいというアピールはしていただいてもいいと思います。

これはなかなか担当の中までの会話は難しいと思いますが、何かあったときにはここに避難してくださいという形をとっていただくのは、我々としては非常に心強いです。

いろんな情報があることを市はアピールしてはいるものの、なかなか皆さんに浸透できないところがあるので、やはり郵便局のこれだけの地域でこれだけの窓口があるということとは非常に心強いです。

それと、毎日配達されている配達員の方々の目というのも非常に心強いので、これを市と連携すると必ずパワーアップしていい形に持っていけると、私は本当にきょうお話をしと思っています。

平時の備えということで、郵便局のネットワークの力、それから窓口の数の力、災害弱者と言われる高齢者の方々を皆さんお相手にしているということ伺いますと、そういう方々へのアピールが本当に身近にできます。今、私は危機管理課にいますので防災のことを話しましたが、いろんなことを取り次いでいただくというだけでも、窓口来られる方も我々としてもありがたいと思いますので、郵便局を、身近に何でも相談できる窓口として、位置づけさせてもらえれば非常に心強いと思います。

とにかく日ごろの備えが大事ということを皆様の知識の中でそれぞれ紹介していただいて、それぞれの局でアピールしていただければ非常にありがたいと思います。

【小松大川郵便局長】

私たちとしては、そういった情報とか、あとは移住・定住のそういうチラシを置くとか、基本的にはいろんなことで協力、最大限のことをしたいなと思っています。

チラシは、窓口で設置することが可能です。また、郵便局のネットワークは東京とか大阪もありますので、そのチラシを今度東京に置くことも可能です。いろんな方法をこちらのほうでまた整理してご提案したいと思います。全てのジャンルでそんな形にさせていただきたいと思います。初めてのことなので、またこれからそれを肉づけしていきなり、またいろいろな面で協力させていただきながら、いろんなものを提案し、そしてまた市からも提案していただくような形で、これからも続けていければいいかなと思います。

これからも長い年月、郵便局は郵便局であり続けますので、今後もまた定期的にこういった会を持ちたいと思います。そしてまたいろんな要望を最大限、現実的にしていくことを繰り返すことが大切かなと思いますので、市長、よろしく願いいたします。

【井出市長】

はい。

【司会】

ほかに何かご意見ありますか。

【市内郵便局長】

防災のことです。夜はご家族の方と同居の方が多いのですが、日中、一人の方が結構います。郵便局の局長として、日中一人の方も把握しているので、日中に災害があったら、そういうのを生かしていけたらと思います。また市とも協力していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

【司会】

ありがとうございます。

【市内郵便局長】

自主防災組織の組成で一生懸命防災士を頑張っています。栗生郵便局長を栗生町の自主防災訓練の講師として派遣することも可能ですので、よろしくお願いいたします。

【井出市長】

そうですか。

【市内郵便局長】

一軒家の貸家を探したい場合、市役所さんのほうに照会すればいいですか。

【地域振興課長】

聞いてください。

【市内郵便局長】

市のホームページに空き家バンクって出ていますよね。

【地域振興課長】

出ていますが、希望の町内の空き家があるかわからないので。

【井出市長】

我々も空き家バンクを持っていて、そこに登録してもらうように市民の方に促しているのですが、残念ながら一番情報を持っているのは不動産屋です。我々も能美市の空き家バンクが一番空き家情報を持っているという状態にしたいのですが、まだちょっとそこまで到達できていません。ただ、地域振興課に聞いてもらえれば、次につなげることは必ずできます。

【市内郵便局長】

郵便局でも空き家情報を、危険家屋として報告するというのであればオーケーと聞いて

ています。それもまたこちらのほうで考えてみます。さらに、能美市から、ここはずっと
いませんという情報があれば、より把握がしやすくなると思います。

【地域振興課長】

地域振興課が、空き家も担当していますので、またよろしく願いいたします。

【司会】

どうもありがとうございます。

【井出市長】

実は地域振興課は、婚活の担当です。さきほど会長から、郵便局は婚活が得意だという
話をお聞きしたので、ちょっと教えてほしいと思います。

【市内郵便局長】

やり始めたいと思っています。今全国が地方創生をやっています。人をふやしたいとい
う思いで、九州も北海道もみんな婚活をやっています。そういうノウハウがあります。（民
間でも）婚活パーティとかって高額で紹介していますけど、そうじゃない、手づくりの、
郵便局らしさが出るような、今はまだ能美市ではしてないのですが、またそれも協力して
いろんなことができればいいかなと思います。

それで、郵便局の全国ネットをうまく利用して、都会の人をつれてくるもよしです。い
ろんなチラシを都市部に置いて、こっちへ来てもらうようなことを今からどんどんでき
ると思います。

ただ、郵便局だけではできないので、また能美市さんともいろいろと相談しながらやっ
ていければと思います。いいものができるかなと思っていますので、また婚活についても
一回、ご相談します。

【地域振興課長】

ぜひ、よろしく願いします。

【司会】

きょうは本当にもどうもありがとうございました。最後に市長から願いします。

【井出市長】

きょうは貴重なお時間をいただきまして、本当にありがとうございました。

我々の市のほうもいろんな思いを述べさせていただきまして、今後、郵便局としっかりと
連携をとりながら進めていける確信を得たのかなと思います。やはりそこには情報の共
有化というのが大変重要なキーであることも改めて思いました。

そうしますと、やっぱりこういった会を定期的にやっていくことが最も近道なのかなと思いますし、一つ一つ繰り返していきながら、具体的な事業として確立をしていければと思います。

市のほうもたくさん問題を抱えていまして、なかなか我々だけでは解決できない、それから市民の声を十分に吸収できないということも実態でして、そのあたりもまた郵便局の皆さんのお力添えをいただきながら、能美市の発展に向けて頑張っていきたいと思っていますので、また引き続きよろしく申し上げます。

【司会】

それでは、これでタウンミーティングを終了したいと思います。ありがとうございました。